

# 地方都市視察報告書

オリンピック・パラリンピック・文化観光等特別委員会

## 1 実施日

平成30年10月17日（水）

## 2 視察地 愛知県半田市

### 【市の概要】

(1) 面積 47.42km<sup>2</sup>

(2) 人口・世帯数（平成30年8月1日現在）

人口 119,709人

世帯数 50,978世帯

(3) 半田市は、1937年（昭和12年）に市制を施行。名古屋市の南、中部国際空港の東にあり、知多半島の中央部東側に位置し、古くから海運業、醸造業などで栄え、知多地域の政治・経済・文化の中心都市として発展してきた。2005年（平成17年）には、西に隣接する常滑市に中部国際空港セントレアが開港し、同時に、空港へアクセスするためのセントレアライン（知多横断道路・中部国際空港連絡道路）も整備されるなど、交通アクセスに優れたまちとして発展を遂げている。

半田市の象徴は、「山車」・「蔵」・「南吉」・「赤レンガ」。山車祭りの歴史は古く、300年余の歴史があり、その伝統や文化を現在に受け継いでいる。なかでも「亀崎潮干祭の山車行事」は、ユネスコ無形文化遺産に登録され、国の重要無形民俗文化財にも指定されている。2008年（平成20年）には、景観行政団体となり、半田運河や矢勝川周辺の景観を保全し、山車まつりの文化や半田赤レンガ建物にふさわしい景観づくりなど、地域の特徴を活かした景観形成を推進している。

## 3 視察項目・内容

新美南吉記念館における運営方法について

## 4 視察参加者

### 【委員】

久保 広介	委員長	えのき 秀隆	副委員長	三沢 ひで子	委員
井下田 栄一	委員	小野 裕次郎	委員	池田 だいすけ	委員
阿部 早苗	委員	有馬 としろう	委員	おぐら 利彦	委員
ひやま 真一	委員	近藤 なつ子	委員	沢田 あゆみ	委員

### 【随行】

議会事務局議事係 濱野 智子 黒木 明子



## 5 視察結果・所感

半田市が直営する新美南吉記念館において、館内見学の後、館長と学芸員の方から記念館の運営経費や人材配置、設立に至る経緯、館と新美南吉に対する市民の思いなどについて説明をいただき質疑を行った。

年間1億円程度の予算を使い運営をしているが、210円の入館料を設定しているため赤字決算である。しかし、市を代表する著名人の記念館ということで、市民・議会も納得した上での運営であるとのこと。配置されている学芸員3名も教育委員会の職員であり市を挙げての事業であると感じた。

展示物についてはその多くが館所有のものであり、また、展示方法もジオラマやICT化で子どもたちにも興味を持たせる工夫がされていた。

新宿区の記念館の多くは指定管理者制度で運営しているが、展示方法、地域との関わり方、カフェの運営など参考に出来ることが多くあった。

## 6 主な質疑項目

- (1) 記念館の運営形態及び運営経費について
- (2) 市を挙げて記念館の運営に取り組んでいるが、地域連携が進む背景について
- (3) ボランティアガイドの資格取得・育成の手法について
- (4) 新美南吉検定などの検討について
- (5) 記念館運営の職員体制と学芸員の育成について
- (6) イベント周知の工夫点について

## 7 その他

### 【共同視察者】

文化観光産業部文化観光課長 小泉 栄一

